



羽田空港

WEATHER TOPICS



夏季号

通巻 第 103 号

2026 年（令和 8 年）

8 月 12 日

発行

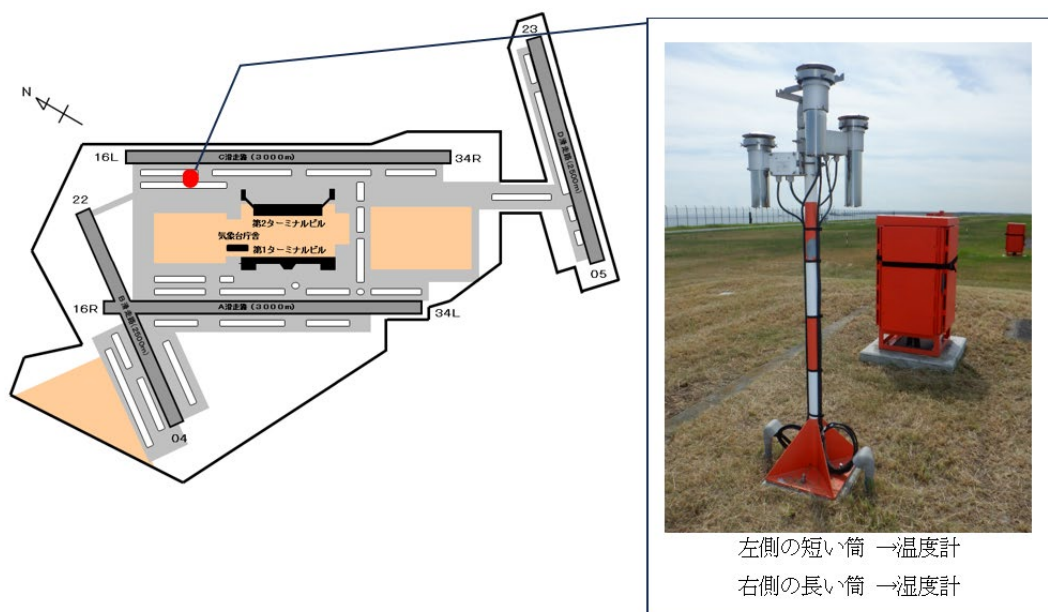
東京航空地方気象台

羽田空港における夏の気温の推移について

近年、夏に顕著な高温を記録する日が全国的に増加しています。気象庁では、最高気温が 40℃以上の日の名称を定めるため 2026 年 2 月 27 日から 3 月 29 日にかけてアンケートを実施し、総回答数 478,296 票の 4 割を超える 202,954 票の得票があった「酷暑日」を当該日の名称として定めるとともに、当庁の発信する情報等において利用することとしました（4 月 17 日発表）。羽田空港においても、気温が上がりにくい沿岸部にありながら最高気温が 35℃以上となる猛暑日の日数が増加傾向にあります。夏の極端な暑さは、熱中症等の健康被害と並んで、航空機のエンジン出力や翼の揚力を低下させることによる経済的な問題の原因となります。今回は、羽田空港における夏の気温の推移を過去の観測データから簡単に振り返ってみます。

1. 羽田空港における気温の観測

羽田空港において気温と湿度を観測する温湿度計は、C 滑走路北側 16L の海側にあります（第 1 図左）。温度センサーは地上 1.5m の高さに設置された通風筒のなかに収められており（第 1 図右）、通風筒上部にあるファンが常に筒内の空気を排気して、外部からの新鮮



第 1 図 温湿度計の設置場所（左）と機器の構成（右）

な空気が流入する構造となっています。気温の観測に関する詳細は、羽田空港 WEATHER TOPICS 通巻第 46 号「温湿度降水観測装置（温度計、湿度計、雨量計）について」をご参照ください。

2. 日最高気温（高い方から）・日最低気温（高い方から）

第 1 表に、羽田空港で観測された日最高気温の高いほうからの観測値と日最低気温の高いほうからの観測値の上位 10 位までの記録を示します。日最高気温（上段）の記録の半数は 2020 年以降に更新されたものとなっており、近年の猛暑が記録的であることを示しています。また、日最低気温（下段）についても同様に、2020 年以降に更新されたものが半数となっている上に、2010 年以前の記録は一つもないことから、夜間に気温が下がりにくい日が増えていることがうかがえます。

2024 年 7 月 29 日は、太平洋高気圧に覆われて栃木県佐野市で 41.0℃を観測するなど、関東地方全域で記録的な暑さとなりました。羽田空港においても、12 時 36 分に最高気温 37.5℃を記録し、観測史上 4 位の記録となりました。この日は夜にかけても気温があまり下がらず、23 時 59 分に記録された日最低気温 29.6℃が最低気温の高い方から観測史上 1 位を更新し、昼も夜も暑さが途切れなく続いた記録的な 1 日となりました。

第 1 表 羽田空港における日最高気温（℃）と日最低気温（℃）の高い方からの年間を通じての順位

日最高気温の高い方から (℃)	38.2 (2013/8/11)	38.0 (2016/8/9)	37.7 (2024/7/30)	37.5 (2024/7/29)	37.5 (2013/8/10)	37.2 (2020/8/17)	37.1 (2025/8/30)	37.1 (2023/7/26)	37.1 (2004/7/20)	37.1 (1994/8/3)
日最低気温の高い方から (℃)	29.6 (2024/7/29)	29.1 (2025/8/5)	29.0 (2018/7/23)	28.8 (2024/8/12)	28.8 (2013/8/11)	28.6 (2011/8/18)	28.4 (2025/9/2)	28.4 (2025/8/27)	28.3 (2020/8/12)	28.3 (2013/8/12)

注）統計期間：1993 年 10 月～2026 年 6 月 黄色のセルは 2020 年以降に更新された記録

3. 日最高気温 35℃以上の年間日数の推移

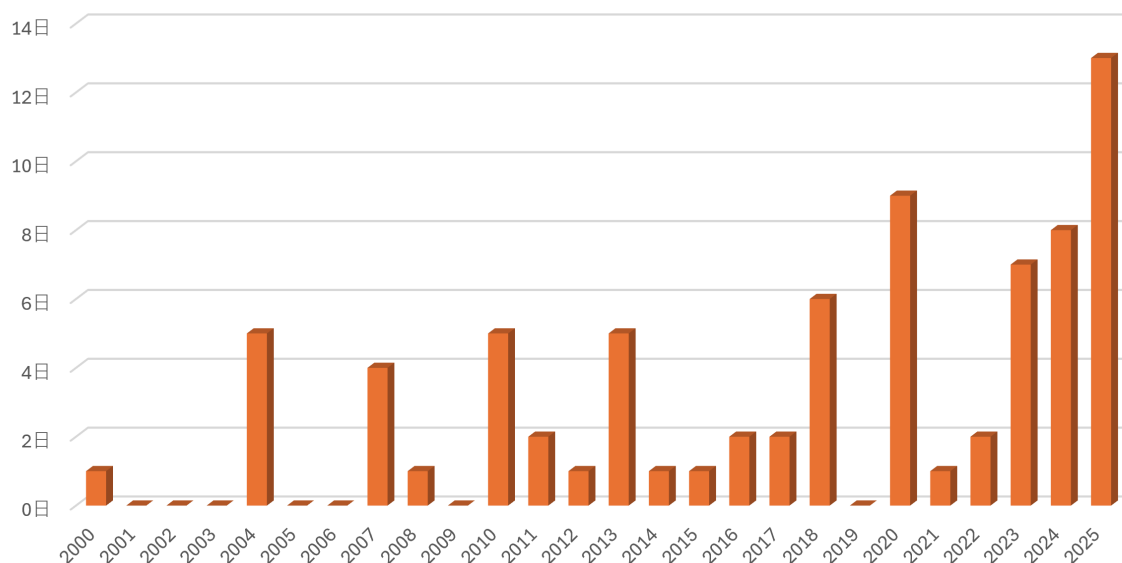
第 2 図に、猛暑日といわれる日最高気温が 35℃以上の年間日数をグラフ化しました。2019 年以前は、散発的に 5 日程度の年が出現してはいるものの、1 日以下の年が多数となっています。2020 年以降になると年間日数の多い年が散発的とはいえなくなり、2025 年には過去最多の 13 日を記録しました。日数の推移からも、2020 年以降の高温化が顕著に表れています。

4. 定時観測通報 METAR における気温 35℃以上の通報回数の推移

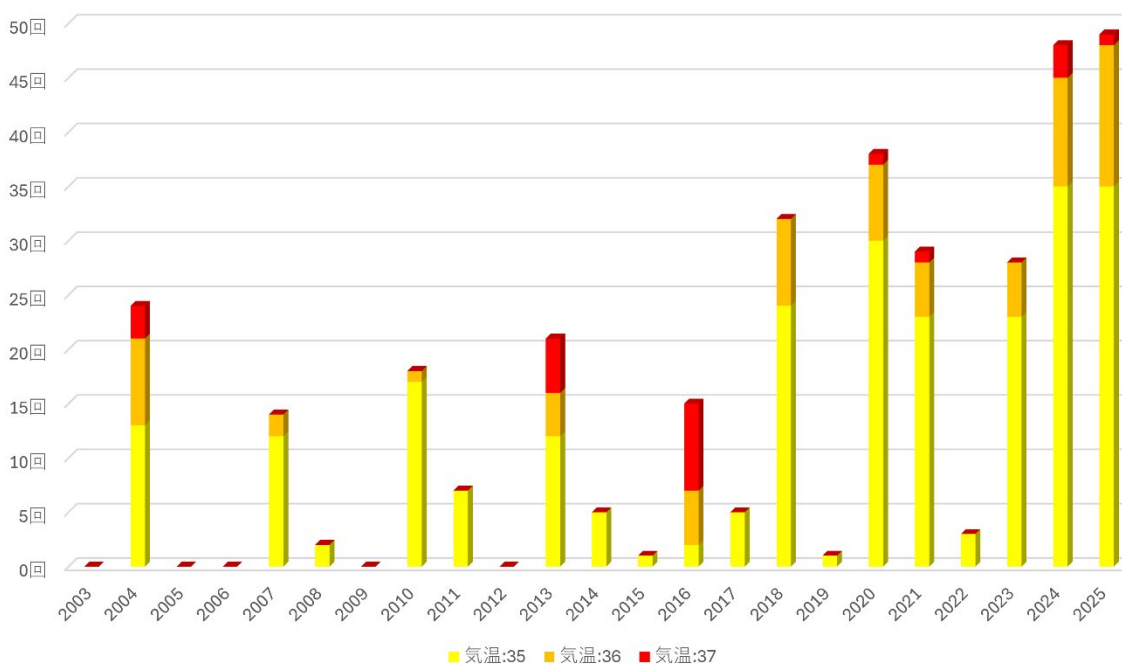
羽田空港における定時観測通報 METAR は 30 分毎に通報されており、METAR に含まれる気温の情報は通報時刻の気温データの少数第一位を四捨五入して作成されています。2003 年以降に通報された METAR の中で気温 35℃以上として通報された回数の推移をグラフ化しました（第 3 図）。

気温 35℃以上の通報回数についても猛暑日の日数と概ね同様な推移の傾向にあり、2018 年以降猛暑が頻発していることがわかります。突出した通報回数となった 2024 年及び 2025 年には、一段階上の暑さとなる 36℃（橙色）と 37℃（赤色）が合わせてそれぞれ 13 回及び 14 回通報されています。過去の通報の中で最も高温となったのは 2013 年 8 月 11

日に特別観測 SPECI として通報された 38℃であり、その日は羽田空港における日最高気温の第1位となる 38.2℃が観測されました。



第2図 日最高気温 35℃以上の年間日数（羽田空港）



第3図 METARにおける気温 35℃以上の通報回数の推移

5. おわりに

羽田空港において顕著な高温を記録する日は近年増加傾向にあり、特に 2020 年以降に際立った増加がみられました。気温の情報は、航空機の離陸性能に影響を与える重要な要素になっています。気象台では、正確な観測値を通報するため、引き続きデータの監視や機器の保守管理に注意深く取り組んでまいります。

発行 東京航空地方気象台
〒144-0041
東京都大田区
羽田空港 3-3-1